

1) 講習会・講演会等の開催

仲松由美子¹・国広潮里¹・板井英伸²・木下靖子¹

キーワード：一般向け 専門家向け 企画展 工作室 美ら島自然学校 子ども 親子 学習会

1. はじめに

当財団では、亜熱帯性動植物に関する調査研究や公共施設の管理をする中で蓄積されたノウハウ、研究成果等を社会に広く発信し、多くの方々に亜熱帯性動植物に関する学習の機会を提供する普及啓発事業として、子どもから大人までを対象にした各種教室等を実施している。これは、一般市民を対象とした講演会だけではなく、研究・調査機関などの業務に携わる社会人や大学生等を主な対象とした、専門的（学術的）な内容・学びの機会として専門家講習会も含まれる。以下に令和6年度の実施状況を報告する。

2. 実施結果

1) 一般向け及び専門家向け講習会・講演会等

(1) 企画展「さがそう！自由研究のタネ」

概要：沖縄の小中学生が取り組む夏休みの自由研究に関連づけた展示とワークショップを行うことで、学習を補助することを目的とした。併せて、財団が行う調査研究等の取り組みを紹介し、県民への周知を図った。

講師：総合研究所職員

実施日：令和6年7月30日（火）～8月4日（日）

実施場所：沖縄県立博物館・美術館

県民ギャラリー、県民アトリエ

県内の小中学生を中心に、6日間で延べ2,085名が来場した。パネルや標本展示に加え、実際に体験できるワークショップを実施した。さらに、来場者に幅広い分野への関心を促すため、会場内のすべての分野を回るクイズラリーを実施した。パネルをしっかり読むことで、来場者の科学への興味関心を高められたと考えられる。（写真-1）



写真-1「さがそう！自由研究のタネ」クイズラリー

(2) 企画展「沖縄のウミンチュの世界『潜る』古谷千佳子写真展」

概要：沖縄のウミンチュ（海人）の“潜る”技を記録し、全ての写真をあえて白黒で印刷し、光と影だけで表現した大判写真10点を展示した。

実施日：

令和6年12月22日（日）～令和7年1月26日（日）



写真-2 企画展「沖縄のウミンチュの世界『潜る』古谷千佳子写真展」

2) 親子、子どもを対象にした各種教室

(1) 美ら島自然学校学習会

美ら島自然学校学習会では、自然環境の不思議や面白さを伝えることを目的に、屋内観察や野外観察などの体験を通じた学習会を行っている。

今年度は、ウミガメの産卵調査体験「ウミガメ産卵しちょんどー！（連続講座）」に30名、夜間見られる虫を観察し、図鑑を作成する「ナイトバグズハンターズ！（連続講座）」（写真-3）に29名、宇宙について学び、星を観察する「美ら島スターナイト」に16名、沖縄本島の東海岸と西海岸で調査員と実際に植物調査を体験する「わくわく！はじめての植物調査」（写真-4）に10名、紅花染めを体験する「ベニバナを使ったハンカチ染め体験（2回）」（写真-5）に15名の参加があった。

今年度初めて東海岸と西海岸で比較調査を実施した「わくわく！はじめての植物調査」では、両日参加した参加者から、植物調査を継続したいとの意欲的な感想が得られた。



写真-3「ナイトバグズハンターズ！（夜間の観察）」



写真-4「わくわく！はじめての植物調査」



写真-5「ベニバナを使ったハンカチ染め体験」

(2) 美ら島自然学校工作室

美ら島自然学校工作室は、主に親子を対象とし、沖縄で採集できる、動物や植物由来の材料・日常生活用品の廃材等を用いて、様々な玩具等を工作する事業である。作製過程で動植物や自然環境の豊かさと活用法を学び、創造性を養うことを目的としている。

今年度も元旦に「こども凧カーブヤーを作ってとばそう！」を開催し、16名の参加があった。



写真-6 「こども凧カーブヤーを作ってとばそう！」

3) 海洋文化講座

海洋文化館の魅力を発信し、知名度の向上と利用促進を図ることを目的に、沖縄を含む太平洋島嶼域の海洋文化を題材とし、展示資料と関連する海洋文化講座を開催した。

海洋文化講座（海洋文化館で実施）を4回、出張・海洋文化講座（沖縄県立博物館美術館で実施）を4回実施した。講座のテーマは各回で設定し、地域の食文化、祭祀、航海術、漁撈などについて講義を行った。（写真-6）



写真-6「出張・海洋文化講座」

3. 今後の展望

今後も当財団職員が中心となって講師を務め、総合研究所での調査研究で得られた結果を含めた講習会および講演会等を実施していく。実施内容は、生きものの生態観察や実験、顕微鏡を使った観察や野外観察、工作などの「体験」を交えた各種教室を企画・実施する。また、題材によっては連続講座で行うことで、知識の定着や興味関心の向上を図る。

4. 外部評価委員会コメント

子どもから大人までの一般向け、および研究者・学生・自然ガイド等専門家を対象に、沖縄の動植物や歴史文化の魅力、財団が行う調査研究成果などの情報を広く、野外観察や実験等の体験を含めて、講習会・講演会等の学び機会を提供する社会貢献の高い事業である。各市町村の企画、教育委員会、調査研究機関などへの周知や連携を進めていくことが望まれる。加えて、成果の発表や資料の刊行にも大いに広げていくことを期待する。

（池田顧問：琉球大学名誉教授）